のしろいち

新たな祭りで子どもたちに
思い出をつくってあげたいー。
そんな思いで始まったのしろいちが
10回目の節目を迎えます。

いつか能代を離れても
「楽しかったなぁ、のしろいち」と
古里を思い出す一つのきっかけになれば。

今回はイベントに携わる皆さんを取材。
そこには、
地域の活性化やにぎわいづくりを
考えるときに大切な
さまざまな思いがあふれていました。

畠町通りやJR能代駅前を舞台にステージイベントやマルシェ、盆踊り、灯りイベントなど、さまざまな企画が登場。マルシェのブースは木製で、木都のしろらしさを表現しています。

おしゃれで非日常なイベントを思い出に

能代の中心市街地にある通りを歩行者天国にして秋、冬と開催している「のしろいち」。今年は初めて夏にも行われました。木製のマルシェブースやドライフラワーの装飾、デザインにこだわったロゴやチラシ。非日常のおしゃれな空間が、衰退しつつあった中心市街地に活気をもたらしています。

中心となって進めてきたのが、のしろ家守舎の湊哲一さん、能代駅前商店会事務局の阿部誠さん、能代市役所職員で中心市街地活性化室室長を務めていた堀口誠さんの3人です。令和元年のおなごりフェスティバルの終了が、のしろいちを始める大きな契機となったといいます。「寂しさよりも危機感が大きかった」と湊さん。能代の子どもたちの思い出がなくなってしまう。子どもたちの記憶に残るような体験ができるイベントをつくろうと、令和2年9月、のしろいちがスタートしました。

淳城南小や能代二中をはじめ、高校生や大学生が企画・運営に参加しています。子どもたちにとっては愛郷心や地域への誇りを育む場に、大人にとってはマルシェ出店などチャレンジの場になっています。「のしろいちは民間や行政とか関係なくみんなで作り上げるイベント。『昔は良かった』とどこか諦めていた地域の人も少しずつ変わり始めている。能代は自分たちの力で変えられることをのしろいちで見せていきたい」と湊さんは話します。

みんなが
能代のために

湊 哲一さん

いろいろな人が運営に携わっているのが他にないと思うし強み。みんなが能代のことを考えて、ただやりたいことをやっています。

商店街も
まだまだやれる

阿部 誠さん

「昔はにぎやかだったのに」と諦めてしまう人をつなぎとめたい。商店街がまだまだ頑張っているというところを見せたい！

戻って来たいと
思えるまちに

堀口 誠さん

子どもは思い出づくり、大人はチャレンジの場にしてほしい。いつか子どもたちが戻ってきたくなるまちづくりを進めたい。